

平成31年4月25日

京都経済情勢報告

(平成31年4月判断)

1. 総論

【総括判断】「京都府内の経済情勢は、緩やかに拡大しつつある」

項目	前回 (31年1月判断)	今回 (31年4月判断)	前回比較
総括判断	緩やかに拡大しつつある	緩やかに拡大しつつある	→

(注) 31年4月判断は、前回31年1月判断以降、31年4月に入ってから足下の状況までを含めた期間で判断している。

(判断の要点)

生産活動は拡大に向けたテンポが緩やかになっているものの、個人消費は緩やかに回復しているほか、雇用情勢は一層の改善が進んでいるなど、全体としては緩やかに拡大しつつある。

【各項目の判断】

項目	前回 (31年1月判断)	今回 (31年4月判断)	前回比較
個人消費	緩やかに回復している	緩やかに回復している	→
生産活動	緩やかに拡大しつつある	拡大に向けたテンポが緩やかになっている	↘
雇用情勢	一層の改善が進んでいる	一層の改善が進んでいる	→
設備投資	30年度は前年度を上回る計画となっている	30年度は前年度を上回る見込みとなっている	→
企業収益	30年度は増益見込みとなっている	30年度は増益見込みとなっている	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策効果などを背景に、緩やかに拡大していくことが期待される。ただし、通商問題の動向や、海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復している」

百貨店・スーパー販売額は、前年を下回っている。スーパーは、野菜価格の低下により売上が減少したことなどから、前年を下回っている。百貨店は、中国の春節に伴い化粧品などの免税売上が好調であったものの、衣料品が低調となったことなどから、前年を下回っている。

コンビニエンスストア販売額は、惣菜などの販売が堅調であったことなどから、前年を上回っている。

乗用車の新車登録届出数は、小型車が前年を下回ったものの、普通車及び軽自動車の販売が好調であり前年を上回ったことから、全体で前年を上回っている。

家電販売額は、4Kテレビや空気清浄機の販売が好調であったことなどから、前年を上回っている。

ドラッグストア販売額は、花粉症対策商品などの医薬品が好調であったほか、外国人客を中心に化粧品などが堅調であったことから、前年を上回っている。

ホームセンター販売額は、暖冬の影響を受け暖房器具などが低調であったことなどから、前年を下回っている。

■ 観光動向 「好調に推移している」

観光動向は、外国人客のホテル利用割合が前年を上回り、ホテル稼働率が高水準を維持するなど、好調に推移している。

- 今年に入り野菜の価格が低下していることなどから、売上は前年を下回っている。(スーパー・大企業)
- 春節休暇の影響により免税売上は好調であったが、食料品や衣料品が不調となっている。(百貨店)
- 中食を充実させており、惣菜などの販売が堅調となっている。(コンビニエンスストア・大企業)
- 4Kテレビが好調であったほか、花粉症対策のために高機能の空気清浄機の販売が好調であった。(家電量販店・大企業)
- 医薬品は花粉症対策グッズの販売が好調であったほか、化粧品は昨年ほどではないが春節休暇の影響によりインバウンドによる売上が堅調であった。(ドラッグストア・中小企業)
- ホテル部門は、昨年と同水準の売上を維持しており、堅調となっている。年間を通じて客室稼働率は高稼働率を維持している。(宿泊・飲食サービス・大企業)
- 外国人客について、春節休暇の影響によりホテル利用割合は前年を上回るなど好調であった。(業界団体)

■ 生産活動 「拡大に向けたテンポが緩やかになっている」

鉱工業生産指数は、スマートフォン向けの電子部品の需要が低下したことなどから電子部品・デバイスが低下しているほか、半導体向け機械の需要が低下したことなどから生産用機械が低下しているなど、生産活動は拡大に向けたテンポが緩やかになっている。

- スマートフォン向けの各種電子部品などの受注が減少している。(情報通信機械・大企業)
- 自動車向けの電子機器の需要は堅調となっているものの、スマートフォン向けの電子機器について、中国経済の減速の影響で、アジアのほか北米の取引先で設備投資を見送る動きがある。(電気機械・大企業)
- 半導体製造装置等について、中国向けで足下の受注は伸びておらず動きが止まった状況となっている。(電気機械・大企業)
- スマートフォン向けの半導体製造装置の需要に一服感があるものの、中国や米国の景気減速は織り込み済みで、まもなく回復するとみている。(生産用機械・大企業)

■ 雇用情勢 「一層の改善が進んでいる」

有効求人倍率は60か月連続で1倍を超え、引き続き高水準で推移しているなど、雇用情勢は一層の改善が進んでいる。

- 現場の施工管理の人材が不足しているほか、営業や事務関係の人材も不足しており、採用が難しくなっている。こうした中、外国人の採用も積極的に行っている。(建設・中堅企業)
- 企業において業務簡素化に向けた取組みが活発であり、業務を自動化する高度な知識等をもつ人材の引き合いが強くなっている。(人材派遣・大企業)
- 定期昇給以外にベースアップを実施し、人材確保のために待遇を改善している。(化学・大企業)

■ 設備投資 「30年度は前年度を上回る見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」31年1-3月期

製造業では、生産用機械などが前年度を上回っているものの、化学、電気機械などが前年度を下回っていることから、全体では前年度を下回る見込みとなっている。

非製造業では、学術研究・専門・技術サービスなどが前年度を下回っているものの、不動産、運輸・郵便などが前年度を上回っていることから、全体では前年度を上回る見込みとなっている。

■ 企業収益 「30年度は増益見込みとなっている」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」31年1-3月期

製造業では、繊維などが減益見込みとなっているものの、電気機械、業務用機械などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

非製造業では、宿泊・飲食サービスなどが減益見込みとなっているものの、学術研究・専門・技術サービス、情報通信などが増益見込みとなっていることから、全体では増益見込みとなっている。

【その他の項目】

■ 住宅建設

新設住宅着工戸数 (後方3か月平均) でみると、前年を上回っている。

■ 公共事業

前払金保証請負金額累計 でみると、前年を上回っている。

■ 金融

法人企業景気予測調査 (平成31年1-3月期調査) でみると、資金繰り判断BSIは全産業で「悪化」超となっている。金融機関の融資態度判断BSIは全産業で「緩やか」超となっている。

■ 企業倒産

倒産件数は、前年を下回っている。

■ 企業の景況感

法人企業景気予測調査 (平成31年1-3月期調査) の景況判断BSIでみると、現状判断は全産業で「下降」超となっており、規模別では、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「下降」超となっている。先行きについて、31年4-6月期は、全産業では「下降」超の見通しとなっている。

連絡・問合せ先 京都財務事務所財務課 Tel.075-752-1418